

令和5年度第1回教育課程編成委員会 議事録

- 【日時】令和5年7月14日（金）10：00～10：45
【場所】こころ医療福祉専門学校壱岐校
【委員】壱岐市社会福祉協議会会長 末永 榮幸 様
【委員】壱岐市立老人ホーム所長 白川 昇吾 様
【委員】社会福祉法人博愛会特別養護老人ホームハッピーヒルズ（幸せの丘）
【委員】施設長 永田 信弘 様
こころ医療福祉専門学校壱岐校校長 後藤 久志
こころ医療福祉専門学校壱岐校教育部
介護福祉科学科長 小嶋 千尋
【事務局】こころ医療福祉専門学校壱岐校学生部 中原 正和

議 題

- (1) 教育方針等について
- (2) 令和5年度重点目標
- (3) 介護福祉科の教育方針
- (4) 令和4年度経過報告と令和5年度行事予定
- (5) 教育課程について
- (6) 在籍学生数
- (7) 所属職員

内 容

- (1) 教育方針等について
配付資料に基づき、こころ医療福祉専門学校壱岐校教育理念について確認。
- (校 長) 岩永学園グループが目指す地域の医療・福祉を包括的に支援する組織づくりの具現化のために、教育機関としての役割として、本校卒業後に壱岐市内の現場で即戦力として働ける介護人材を送り出す役割を担っています。前校長の「傍らに人あり」の精神を受け継ぎ、併せて「地域のために」の精神を大切に、介護人材の育成に努めてきました。5期生までを送り出し、壱岐市内の関連施設に多くの卒業生を輩出することができ、それぞれの施設で活躍しています。そうした地道な努力の積み重ねによって、徐々に本校に対する評価が高まってきているように実感しています。しかし、中学校や高校のガイダンス等に行くと、まだ認知度は十分ではないということを感じます。介護福祉士になるという志を持っている者には、是非本校でしっかり学び、壱岐市内の介護人材確保の一助になるように啓蒙していきたいと思えます。
- (委 員) 多くの卒業生がこの市内で働かれていることに対し、私たちも市民として大変うれしく思っています。市内施設もよく協力されているのではないかと思います。
- (校 長) 学生にとって、施設実習や学校内での勉強など目から入って来る情

報は、非常にいい経験になっています。夢を実現させるために、学んだ知識や技能を十分発揮できるよう育成していきたいと思えます。今年度は学生が多く、外国人留学生22名、日本人学生8名、計30名入学しております。2年生は外国人留学生10名、日本人学生4名、計14名。学校全体で44名もの多くの学生がいます。学校内に併設する寮の受入も多くなっております。日本人学生の中には、一度島外へ出て行った者もおります。すぐに戻って来るのは非常に勿体ない気がします。一度島外へ出て地元のありがたみを再認識するのも一つの経験かもしれませんが、帰ってきて勉強している学生は、戻ってきて良かったと思っております。また、長年社会人を経験し壱岐へ戻ってきたある学生は、親の面倒を見る傍ら、介護の仕事を目指したいと頑張っております。

(委員) 高校卒業後は島外に出るということは、一般的に暗黙の了解になっている。しっかりとした目的があればよいが、そうとばかりは言えない。市内になりたい職業や働き口が限られているのも一要因ではないかと思う。

(2) 令和5年度重点目標

(校長) 分かりやすい授業を行い、国家試験においては日本人学生全員合格を目指します。昨年度は、日本人学生の全員が合格しております。留学生も意欲的に取り組んでいます。今年度も日本人学生の100%合格、就職率100%を維持したいと考えています。卒業生は、2年間介護の勉強を行っており、施設でも重宝されています。今年度の留学生の中には、しっかり頑張れば合格できそうな者が2名ほどいます。学生募集に関しては、日本人10名、外国人15名を目標にしています。留学生が多くなると、実習先やアルバイト先の確保、送迎が難しくなるため、それが今後の課題となっています。住まいについてもキャパ数が限られているので、うまく調整する必要があります。コロナウイルス感染症については、徹底した予防対策を行っており、学校が起因によるものはありませんでしたが、寮は4人部屋なのでかなり神経を使います。

(3) 介護福祉科の教育方針

(学科長) 「倫理観」や介護福祉士に求められる「こころ」をしっかりと育てることを前面に出しています。

(4) 令和4年度経過報告と令和5年度行事予定

(校長) 近年新型コロナウイルス感染症の影響で入学式や卒業式について来賓を呼ばず学生と保護者を中心に行ってきましたが、今年度の卒業式は多くの来賓を呼びたいと考えております。宣伝活動としまして、オープンキャンパスや情報発信としてのホームページやブログの充実、ケーブルテレビの「うらふれ体操」収録など地域交流も行っております。7月3日からは2年生の第3段階の施設実習も始まっております。

ます。

- (委員) コロナ感染症の分類変更に伴い、活動が緩和され始め、以前の行事もできるようになればもっと交流の機会も増えてくるのではないかと思います。そのような機会を利用して地域との交流が増えるといいと思います。

(5) 教育課程について

- (学科長) 令和3年度から「人間関係とコミュニケーション」のカリキュラム変更が行われ、30時間から60時間へ変更されております。国家試験については、昨年度より試験科目の順番が変更になっています。学生には模擬試験で対応したいと思います。また、今年度は多くの留学生が入学しましたので、日本で生活するためのルールや社会人としてのマナーを身に付けさせたいと思います。

(6) 在籍学生数

- (校長) 今年度は多くの学生が入学しておりますが、ベトナムからの留学生が多くを占めております。昨年度の入学生は元々16名おりましたが、留学生2名に進路変更がっております。1名は男性で、別の日本語学校へ進むため退学しております。もう1名は女性で、4月からグループである長崎校介護福祉科へ転入しております。現在2年生は日本人学生4名、留学生10名の計14名、1年生は日本人学生8名、留学生22名の計30名全体で44名の学生が在籍しています。

(7) 所属職員

- (校長) 前学科長の田島が退職しております。また、一部非常勤講師が代っています。新型コロナウイルス感染症の分類変更により、授業形態もリモートから対面へと戻ってきましたが、点字については、島内での講師の確保が難しく、今年度も福岡からリモート授業をお願いしております。

(8) その他

- (校長) 留学生については、文化の違いなのか、平気で土足のまま上がって来るなど、日本の常識とは異なることも多々あります。母国での生活とのギャップがあるようです。日本で生活する以上は、日本のルールに従って欲しいと思っていますので、その都度指導を行っているところです。同じ国の出身者が多いために、母国語中心の会話で生活するために、なかなか日本語が上達しない環境にあります。日本語を普段の生活の中で使うように指導をしています。また、学生やアルバイト先の日本人と積極的に会話することを進めています。実習やアルバイトにおいて、気付きがありましたら積極的に指導して欲しいと思っています。留学生は節約のために小さな畑で作物を種や苗から自分達で作っており、自給自足をしている学生もおり、

見習うべきところもたくさんあります。

- (委 員) 実習で留学生を受け入れているが、言葉遣いや接し方など評判が良かった。日本人より良い印象を感じるところも多い。日本人学生の研修生には介護福祉士に必ず合格するようノルマを課している。また今後は、Uターン組など、高校新卒以外にも門戸を開いて受け入れも考えている。新しい資格を持って入職してもらおうと対等にできる。
- (学科長) 実習の時間は長く、座学と現場ではそれぞれ違いがあります。学校内で毎回毎回指導は難しいので、これだけは指導していきましようというような気付きがありましたら、ご指導いただきたいと思えます。
- (委 員) 実習現場での学生の観察が手薄になっている。1年生はこれだけ、2年生はこれだけとポイントを伝えてもらえれば周知できると思えます。
- (委 員) 職員も入居者を見守りながらの指導とあって、同じレベルで指導できているのか、手伝い的な感じになっていないか心配である。
- (委 員) 研修生や新人として扱って欲しい。ポイントをメモ書きいただければ有難い。
- (校 長) 入試案内については、7月より総合型選抜の受付も始まりました。先日開催したオープンキャンパスでは、10名の高校生とその保護者が参加されました。日本人が多く入学してくれると、そのまま壱岐に残ります。壱岐に残って就職した外国人もいますが、車の免許が中々取れません。試験も間違っているところが分からない、実地でも試験官の言うことが分からない。他の施設へ行っても通勤が大変かと思えます。

以上をもって令和5年度第1回教育課程編成委員会を終了いたします。